





備中国分寺五重塔



指定区分	国指定重要文化財(建造物)
読みかた	びっちゅうこくぶんじごじゅうのとう
所在地	総社市上林
指定年月日	昭和55年12月18日
解説	<p>文政4年(1821)に工事に着手し、20数年の歳月を費やし弘化元年(1844)頃に完成した県内唯一の五重塔。方三間、本瓦葺き。総高約34.3m。屋根の上に青銅製の相輪をたて、心柱は、床下の礎石から相輪に達している。初層の内部は、四天柱で内陣と外陣に分かれ、内陣の仏壇には五智如来像が安置されている。五重塔のある日照山国分寺は、奈良時代にあった備中国分寺跡に江戸時代中期に再建された真言宗の寺院。吉備路の風景の象徴として親しまれている。</p>
アクセス方法	JR総社駅から車で10分。
公開状況	外観のみ
設備	<p>風土記の丘駐車場利用可能</p> <p>  駐車場  障害者用駐車場  トイレ  障害者用トイレ </p>
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	備中国分寺五重塔
よみかた	びっちゅうこくぶんじごじゅうのとう
しょざいち (所在地)	総社市上林
していつひ (指定した日)	昭和55年12月18日
せつめい	現在(げんざい)の建物(たても)は江戸時代中期以降(えどじだいちゅうきこう)に再建(さいけん)されました。五重塔(ごじゅうのとう)は、これが県内(けんない)でただひとつのものです。高(たか)さはおよそ34.3メートルあります。国分寺(こくぶんじ)は、奈良時代(ならじだい)の聖武天皇(しょうむてんのう)のひとつの国(くに)(岡山(おかやま)では、備前(びぜん)・備中(びっちゅう)・美作(みまさか))にひとつの寺(てら)を造(つく)るようにとの命令(めいれい)で建(た)てられたものです。